

## 2026「戦争も核兵器もない平和な世界を」市民の集い (ヒロシマからのアピール)

### “安らかに眠って下さい 過ちは繰り返しませんから”

広島平和記念公園にある原爆死没者慰霊碑に刻まれている碑文です。すべての人びとが原爆犠牲者の冥福を祈り、戦争という過ちを再び繰り返さないことを誓う言葉であり、過去の悲しみに耐え、憎しみを乗り越えて、全人類の共存と繁栄を願い、真の世界平和の実現を祈念する「ヒロシマの心」が刻まれているものです。

1945年8月6日、広島に投下された原子爆弾によりその年の末までに約14万人もの尊い命が奪われました。家族を探し続けた母親、弟や妹の手を握ったまま力尽きた子どもたち、朝ごはんの支度をしていた主婦の方々、その一人ひとりの無念を思い、すべての人々が原爆犠牲者の冥福を祈ること。それが、この碑文に込められた願いです。

しかし、2020年代に入ってから、ウクライナ戦争や中東での紛争など、数十万人規模の市民が犠牲になっています。軍事力の優位性を背景に他国へ武力行使することは国際法違反です。国連憲章前文では“大小各国の同権”が掲げられ、二度にわたって繰り返された世界大戦の惨害から将来の世代を救うことの決意が示されています。私たちのくらしの礎である日本国憲法は、先の大戦の反省から戦争や武力による威嚇、行使を国際紛争の解決手段として永久に放棄しています。戦争という過ちを再び繰り返さないこと、これはヒロシマが世界に訴える“決意”です。

そのような中、2021年1月、核兵器禁止条約が発効されました。国際条約として初めて核兵器の使用・開発・保有などを全面的に禁止した画期的な条約です。世界の市民が連帯することで人類滅亡の危機を乗り越えるアプローチの成果と言えます。また2024年12月、日本被団協がノーベル平和賞を受賞しました。被爆者の粘り強い証言活動の成果であり、世界のリーダーへの警鐘と市民社会の核兵器廃絶への意識高揚への期待が背景にあります。

ひとたび核兵器が使用されれば、世界の破滅がもたらされ、人類の滅亡に繋がるだろうと専門家は指摘しています。「抑止力」を根拠に、世界の軍事費は年間約430兆円(2.7兆ドル)を超え、核兵器だけでも約1万2千発が今なお地球上に存在します。核兵器は一瞬にして多くの命を奪うだけでなく、貧困や差別・偏見、放射能による体調不良など“終わりの無い被害”をもたらします。その現実が、ヒロシマにあります。

世界のリーダー、市民のみなさん

「ヒロシマの心」に耳を傾けてください。被爆の実相に触れてください。過去の悲惨な経験から未来を展望した“誓い”を思い起こしてください。力の支配が世界を席卷している今こそ、非核三原則を土台に人道的立場にたった平和外交を積極的に押し進めて下さい。私たち市民は思想信条を乗り越え連帯し、誰もが安心してらせる世の中を取り戻すために、戦争も核兵器もない平和な世界の実現に向け邁進することを決意し、以下アピールします。

1. 私たちは、人間の尊厳を土台に、思想信条の違いを超え連帯します。
1. 私たちは、武力により大国が他国を脅かすことに抗議し、現在発生している紛争の即時終結を求めます。
1. 私たちは、日本政府及び世界各国に対し、核兵器禁止条約に署名・批准することを求めます。
1. 私たちは、被爆地ヒロシマで活動する市民として連帯し、地域での草の根活動を推進します。

ノーモア・ヒロシマ ノーモア・ナガサキ ノーモア・ヒバクシャ ノーモア・ウォー